

農作物生育・技術情報 3号

令和5年(2023年)6月20日

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 主要野菜の生育状況

【6月15日普及センター調べ】

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：3～4段目収穫中 4月定植：1段目収穫中 5月定植：3段花房開花 ＜病害虫、生理障害＞ ・灰色かび病が一部ほ場で見られる。	＜灰色かび病＞ ・ベツト内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くしましょう。 ・側窓、出入り口を開ける、換気扇を回すなど、ハウス内が多湿にならないよう注意しましょう。 ・ローテーション防除を行いましょう。 ＜高温などの障害＞ ・リーフカバーを利用し、過度の果実温度の上昇を防ぎましょう。 ・強日照が予想される場合は、遮光資材(ネット、塗布材)を利用しましょう。 ・曇天が続いた後に高温、強日照が予想される場合は、かん水の間隔を狭めたり、カルシウム材を加えるなど適切な土壌水分確保や肥培管理に努めましょう。
ハウス軟白ねぎ	・夏秋どり作型定植中。 ・ハモグリバエ類が見られる。	・ハウス周辺の除草、残渣の処理を徹底しましょう。
ハウス立茎アスパラガス	・立茎期。 ・夏芽収穫始め。	・ハウス周辺の除草を行いましょう。
かぼちゃ	・つる伸長期。	・子づる除去は晴天日に行いましょう。 ・誘引を行いましょう。

2. 畑作

(1) ばれいしょ

○疫病 疫病は着蕾期以降から発生が見られ、降雨による多湿で蔓延しやすくなります。降雨前の予防防除を徹底しましょう。

※カルビーポテト契約ほ場では、同社提供の防除体系例も参考にしてください

○軟腐病 多発しやすい高温多湿が続いています。特に高夜温が続き、降雨が予想される場合、予防防除を行いましょう。

(2) てんさい

○根腐病 6月下～7月上旬までに予防的に薬剤散布しましょう。

○ヨトウガ 食害を受けた株が見られたら防除を開始しましょう。

*詳細は北糖の「てんさい栽培技術情報」をご覧ください。

(3) 秋まき小麦

○アブラムシ類

出穂10日目に穂を観察し、2本に1本の割合でアブラムシが寄生していれば防除して下さい（基準は1穂当たり7～10頭）。

(4) 大豆、小豆

定期的の中耕作業を行い初期生育の促進に努めましょう。

中耕作業は花芽分化前の7月上旬までに終了します。

3. 牧草生育状況（6月15日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況			遅速日数	摘要 (作業期節・特記事項)
	項目	R5年	平年		
牧草	草丈	93.2cm	88.4cm	6/11(6/13)	+2 生育遅速は平年並である。

○1番草収穫の施肥

- ・1番草の収穫後は、草種に応じた追肥を行いましょう。
- ・チモシーでは、新しい分けつが地表に出現する「刈り取り後1週間～10日目頃」に施肥することで、2番草の1茎重が増えて多収になります。この施肥を行わないと、経年的にチモシーの茎数が減り、雑草の侵入を招くことになるので注意しましょう。
- ・オーチャードグラスでは、栄養茎がすぐに再生を開始するので、1番草刈り取り後できるだけ速やかな施肥を心がけましょう。

○草地更新を計画的に進めましょう（リードカナリーグラス（RCG）が多い草地例）

- ①一番草収穫後、雑草の再生を待ちます（約30日）。目安：RCG草丈 40cm程度
- ②グリホサート系除草剤を散布し、10日以上枯殺期間を確保します。不十分な薬効や散布ムラがあったら、速やかに再散布して下さい。
- ③牧草の播種床を作ります（耕起→整地→鎮圧）。
- ④雑草の発生（実生）を待ちます（30日以上を確保）。目安：雑草草丈20～30cm程度
- ⑤グリホサート系除草剤を散布し、散布当日～10日以内に施肥・播種・鎮圧しましょう。

4. サイレージ用とうもろこし生育状況 （6月15日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況		遅速日数	摘要 (作業期節・特記事項)
	項目	R5年		
サイレージ用 とうもろこし	草丈	32.1cm	26.5cm	+3 生育遅速は平年よりやや早い。
	葉数	5.8枚	5.1枚	

○除草剤散布

とうもろこしの除草剤は、雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、生育を見て早めの散布を行いましょう。また、使用量・使用法を遵守して適切に使用して下さい。

5. 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

- 病害虫・雑草の防除に使用する薬剤は、農林水産省登録の薬剤に限ります。
- 使い慣れた農薬であっても必ず「令和5年度 防除ガイド」と「農薬ラベル」を確認しましょう。